

みふね精霊流し



1_ 爆竹や花火は魔除けの意味があると伝えられている 2_ 6人の住職から読経を賜った慰霊祭 3_ 御船川を流れる供養万灯
4_ 熊本地震の犠牲者を追悼する慰霊船 5_ 故人の魂を送り出す炎



3



5



4



伝統行事「精霊流し」

御船川河川敷で8月16日、300年以上続くと伝えられている伝統行事「みふね精霊流し」(みふね精霊流し保存会主催)が開催されました。精霊流しは、今年初盆を迎えた遺族が先祖や故人を送る行事。当日は町内外から多くの人が訪れました。

「夏季慰霊祭追悼式」

夏季慰霊祭追悼式(町主催)では、昨年8月から今年7月までに亡くなった町民191人を追悼しました。式典では藤本正幸町長が「191人の御霊と、地震で命を失った人々の冥福を祈ります。被災者の一日も早い復興を願います」とあいさつ。遺族らは祭壇に手を合わせ、故人の霊を供養しました。

熊本地震の犠牲者を追悼

式後、220基の万灯が御船川に流され、20隻の精霊船が引き手と共にゆっくりと川を下りました。

また、今年は特別に「慰霊船」を町と保存会が協力して製作。熊本地震の犠牲者を追悼しました。

万灯に思いを乗せて

供養万灯には、亡くなった家族への思いを込めたメッセージなどが書かれています。

「もう一度会いたい」

「たくさん幸せをありがとう」

「天国から見守っていてください」

惜別、愛情、様々な思いを乗せた万灯は、淡い光を放ちながら静かに川面を流れ、故人の魂を送りました。

◀ 4月16日の地震で亡くなった持田哲子さん(滝川)の夫武久さんが流した万灯。



「お世話になったね
ありがとう
かあちゃ
幸せを見守っていてくれ」